

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	StageIV 大腸癌に対する原発巣切除の意義
	研究目的	切除不能な遠隔転移のある StageIV 大腸癌は、予後不良であるが、手術、化学療法、放射線等の集学的治療を行うことで、予後の延長が期待される。化学療法による治療成績が向上している昨今、原発巣切除を先行するか否かは証明されておらず、検討の余地がある。 本研究では、遠隔転移のある切除不能大腸癌の患者さんを対象に、治療内容と治療成績に関して調査し、StageIV 大腸癌における原発巣切除の有用性を確認することを目的とする。
	研究対象者	StageIV 大腸癌と診断され 2008 年 1 月～2018 年 12 月に治療を開始した症例
	研究期間	西 暦 2019 年 11 月 27 日 ～ 西 暦 2020 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 塩澤学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし